

古河電工アイスホッケー部 - H.C.栃木日光アイスバックス

100周年記念式典・パーティー



2025年9月15日(月・祝)
於 日光東照宮客殿

古河電工アイスホッケー部 - H.C.栃木日光アイスバックス 100周年記念式典・パーティー

○日時 9月15日(月・祝)

13時~15時

○会場 日光東照宮客殿大広間

1. 開 式

2. 御祈禱

3. オープニングムービー

4. 主催者挨拶 (株)栃木日光アイスバックス 代表 セルジオ 越後

5. 来賓挨拶 栃木県知事 福田 富一 様

6. 100周年記念功労賞表彰

7. 乾 杯 日光市長 栃木県アイスホッケー連盟会長 瀬高哲雄 様

<歓談>

8. 100年の歩み

第一章 日本最古のクラブチーム「古河電工アイスホッケー部」の誕生と軌跡

第二章 古河を継承した「H.C.栃木アイスバックス」の奮闘記

第三章 地域とともに「日光・アイスホッケーの100年」が未来をつなぐ

<歓談>

9. 謝 辞 (株)栃木日光アイスバックス チームディレクター 土田 英二

※終了後、記念撮影を予定しています。

古河電工アイスホッケー部 - 日光アイスバックス 100周年記念 功労賞受賞者

ちば てつお

千葉 哲夫 様 1934年栃木県生まれ(2010年4月没)

長年にわたり栃木県アイスホッケー界の発展に尽力し、競技の普及・振興において多大な功績を残した。栃木県アイスホッケー連盟会長および理事長を歴任し、日光バックス・ホッケークラブ設立委員会代表としてクラブ存続のために尽力した。

やまもと ひさお

山本 久男 様 1940年栃木県生まれ

日光高校在学中にインターハイで優勝を果たし、栃木県初の栄冠をもたらした。昭和33年に古河電工アイスホッケー部に入部、全日本選手権優勝など輝かしい成績を収めた。現役引退後は指導者として日光市立東中学校を全国制覇に導くなど、長年にわたり少年育成に尽力。栃木県アイスホッケー強化委員長、副会長も歴任し、栃木県アイスホッケー界の発展に大きく寄与した。現在も連盟顧問として活躍している。

ひしぬま ひろこ

菱沼 弘子 様 1941年栃木県生まれ

18歳で古河電気工業株式会社に入社。人事部業務の一環として、アイスホッケー部のマネージャーを担当。長年にわたりチームを支え続けた。1999年には、同社を退職しアイスバックスの運営会社に入社。57年間にわたりクラブの存続に尽力した。さらに、栃木県アイスホッケー連盟では競技役員やアナウンスとして活動し、多方面から栃木県アイスホッケー界の発展に大きく寄与した。

もんま のぶお

門馬 信男 様 1948年栃木県生まれ

昭和41年に古河電工アイスホッケー部に入部し、11年間にわたり選手として活躍。現役引退後は同部の監督として4年間チームを牽引し、指導者としての手腕を発揮した。さらに栃木県アイスホッケー連盟理事長を務め、県内アイスホッケー界の発展に大きく寄与した。現在も連盟顧問として活動を続けている。

きょうや たかひこ

京谷 隆彦 様 1952年北海道生まれ(2019年5月没)

昭和46年に古河電工アイスホッケー部に入部し、11年間にわたり選手として活躍。現役引退後は栃木県アイスホッケー連盟において強化委員長、理事長を歴任し、長年にわたり県内の競技力向上と選手育成に尽力した。特に次世代を担う選手の強化体制整備に大きく貢献した。

いりえ あつお

入江 淳夫 様 1937年栃木県生まれ(2025年4月没)

昭和31年、古河電工アイスホッケー部に入部。日本代表として、1960年スコーパーレー大会、1964年インスブルック大会の二度にわたり冬季オリンピックへ出場。現役引退後は、古河電工アイスホッケー部や栃木県代表監督として手腕を発揮し、国体優勝など数々の成果を収めた。栃木県アイスホッケー連盟副会長・強化委員長として後進の育成に尽力し、「ホッケータウン日光」の礎を築いた。

ひしぬま まさゆき

菱沼 正幸 様 1941年栃木県生まれ

昭和41年、古河電工アイスホッケー部に入部。選手として活躍された後、国際審判員として、国際大会を含む多くの試合でレフェリーを務め、その公平かつ的確なジャッジは、多くの選手や関係者から厚い信頼を集めた。栃木県アイスホッケー連盟では、レフェリー委員長を務め日本および栃木県における競技力の向上と後進の育成にも大きな足跡を残した。現在も連盟顧問として活躍している。

さとう きんぞう

佐藤 欣三 様 1948年栃木県生まれ

昭和37年に古河電工アイスホッケー部に入部し、選手として活躍。現役引退後は栃木県アイスホッケー連盟において強化委員長、理事長を歴任し、古河電工リンクの責任者として競技環境の整備にも尽力するなど、地域のアイスホッケー振興に貢献した。現在も連盟顧問として活動を続けている。

たかはし けんじ

高橋 健次 様 1948年栃木県生まれ(2002年8月没)

有限会社日光アイスバックス栃木の初代表取締役として、古河電工アイスホッケー部の休部後に資金調達や運営体制の整備、選手・スタッフとの信頼構築など、チームの再建と新たな市民クラブ化に尽力した。病と闘いながらクラブ再建に取り組む姿は、人々とのつながりを築き「日光アイスバックス」としての再興を果たす原動力となった。



▲昭和28年 全日本選手権初優勝時の集合写真(於 東照宮リンク)
(提供=アイスホッケー部六十年史)

100年タイトル

1925年 精銅所体育会(アイスホッケー部)発足(創部年)
1953年 第21回全日本氷上選手権大会にて「初優勝」
1959年 第27回全日本氷上選手権大会「優勝」
1960年 第28回全日本氷上選手権大会「優勝(連覇)」
1962年 第30回全日本氷上選手権大会「優勝」
2014年 第82回全日本アイスホッケー選手権「優勝」

2019年 第87回全日本アイスホッケー選手権「優勝」
2023年 第91回全日本アイスホッケー選手権「優勝」
2024年 第92回全日本アイスホッケー選手権「優勝(連覇)」
2025年 100周年を迎える

100年の軌跡 未来へのフェイスオフ

本日は、ご多忙のなか「古河電気アイスホッケー部 - H.C.栃木日光アイスバックス100周年記念式典・パーティー」にご参会いただき、厚く御礼申し上げます。

おかげ様で日本最古のアイスホッケーチーム「H.C.栃木日光アイスバックス」は、前身となる古河電気アイスホッケー部の創設から100年という大きな節目を迎えることができました。

100年にわたる歴史の中で、私たちは数々の困難や挑戦を乗り越えてまいりました。時には厳しい試練に直面しながらも、地域の皆様、ファン・サポーターの皆様、パートナー企業の皆様、そして自治体の皆様からの温かいご支援とご協力が、私たちを支え続けてくださいました。皆様のご支援に深く感謝申し上げますとともに、皆様の応援が私たちの力となり、希望となりましたことに重ね重ね御礼を申し上げます。

100周年という大きな節目を迎えるにあたり、皆様への感謝を込めて、さまざまな事業やイベントを企画し、歴代の諸先輩達と地域が築いてきたクラブの歴史を振り返りながら、次の100年に向けて、新たな歴史への一步を共に歩み始めます。

引き続き、世紀を超えるH.C.栃木日光アイスバックスへの変わらぬご支援とご声援を賜りますよう、お願い申し上げます。



株式会社栃木日光アイスバックス

〒321-1406 栃木県日光市松原町17-1

TEL.0288-53-5166 / FAX.0288-53-1491

OFFICIAL SITE >> <http://www.icebucks.jp/>



式典での集合写真は、右記QRコードからダウンロードできます。